

神奈川県立みどり支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和7年度 第3回みどり支援学校運営協議会		
開催日時	令和8年2月19日(木)15:00~16:30		
開催場所	みどり支援学校 会議室		
出席者	神奈川県立みどり支援学校 学校運営協議会委員7名(本校校長を含む。3名欠席) 神奈川県立みどり支援学校 学校運営協議会事務局教職員9名		
次回開催予定日			
問い合わせ先	みどり支援学校 副校長 堀野 史雄 電話 045-471-7941 Fax 番号 045-474-4707		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>審議(会議)事項</p> <p>(1)学校長挨拶 ・本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。今年度は4年間の取り組みの2年目となり、目標を具現化していく1年でした。今年度の取り組みの中には成果、課題ともにあります。本日は、目標達成に向けた1年間の取り組みをご報告します。率直な意見を賜りますようお願いいたします。</p> <p>(2)会長挨拶 ・校長先生がおっしゃられたように、難しい外的環境のなか運営されている学校です。学校の実情も鑑みながら委員として考えられることをお伝えしていきたいと思えます。ポイントを絞って熟議をしていきますのでご協力をお願いします。</p> <p>(3)年間評価について ・マトリクスについて説明。達成、継続で評価している。</p> <p>○教育課程・学習指導 ・(委員)マトリクスで継続となっている評価の具体的な点は？ →分教室では教科の年間指導計画の書式が整っていなかったために夏季休業期間中に整え、3学期に今年度の取り組みについて作成した書式に入力することとした。次年度から実際に作成を始めるため継続となる。 →小学部の教育課程編成表については本校の小学部の実態と照らし合わせて検証した。日課表の見直し等、まだ検討の余地があり見直しを引き続き行っていきたいため継続としている。 →中学部は教育課程編成表を他校と比較した。今年度は生活単元について、内容を捉えていても教科目標として扱っているか見直した。他教科については今後見直しを行うため継続となる。 →学校全体としては全ての学部の整理が終わっていないため継続としている。 ・(委員)他校と比較ということだが、各校の特徴があるものなので、揃える必要がない面もあるのではないか。みどり支援学校としての独自の取り組みもある中バランスはどう取るか？ →小学部では体育が他校と比較してとても多い特徴がある。体を作る段階の学部として大事にしたいところだが、一方で課題別学習は各学年ばらつきがある。個別の課題を毎日の繰り返しの中で育てたい。体育は体づくり、体育で保証しながら課題別学習を増やして学習を積み重ね、成長させていきたい。 ・(委員)授業時間を見ると何を大切にしているかが分かるので良い取り組みである。下校時刻の見直しはどうか？ →高等部は多様な働き方の教員がいる中、打ち合わせの時間の確保のために水曜日の下校時刻を早めた。生徒にとっては「委員会」がなくなる形だが、LHRを増やしてクラス活動の時間を確保した。 ・(委員)小学部の取り組みはとても納得がいく。取り組みを実証する、足跡を残す活動が大切。ずっと継続していくもの。</p> <p>○児童生徒指導・支援 ・(委員)「個別最適な学び」と「協働的な学び」が継続となっている状況は？</p>		

審議(会議)経過

→小学部は一つの単元の中のどこでそれらの視点、また視点の両立を大切にしたいかを発表する場を作った。今後どうしていきたいかも発表してもらったが、今後その発表をどう生かしていくか深めていきたいため継続とした。

・(委員)フラグとは何か？

→中間報告を行った際は、まだリフレクションを開始したばかりであった。フラグは文字通り旗のことで、授業者のメインティーチャーの机上に立ててリフレクションの活性化を促進したツールである。8月に授業づくりの基礎基本、12月に個別最適な学びと協働的な学びの研修を全校で受講した。教職員のアンケートからは授業について語る場が増えた、2回の研修を受けて職員全体で共通確認できたという声が挙がった。授業の中身を丁寧にみていく段階にはまだ至っていないとの声もあった。今後主体的で深い学びにつなげていきたいと考えている。

・(委員)特別支援学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」はどのような姿を目指しているのか？

→探究的な学習や体験的な学習を通して他者と協力しながら持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を育む学習。

→子供の実態により相手への伝え方ひとつをとっても自分でできる子、教員が代弁する等様々である。基本的な考え方は通常の学校と同じである。教員のかかわり方、場の設定、そういう中で作っていく。

・(委員)「こんなことができると協働的な学びができた」というような、教員がどう捉えているかの具体を知りたい。

→小学部の例では、ひとりの子どものためにコミュニケーションボードを掲示していたところ、他の子どももそれを見て「こうしたら伝わる」と学び、使い始めた。場の設定から協働的な学びがされたと感じる場面であった。集団授業の場では他者の取り組みを見られる環境設定にしたことで、周りを真似てやってみる子どもがいた。

・(委員)それも大事な協働的な学びのひとつと思う。先生方が協働的な学びを言語化して共有すること、話し続けていくことを大切にもらいたい。

○進路指導・支援

・(委員)継続となっている点について説明を伺いたい。

→キャリア教育の視点に立った育てたい力については、12月に各学年教員で「将来素敵な社会人になるためにこの学年の子どもたちに育てたい力」は何かを考えてもらった。今ままとめており、今後全教員に周知していく段階のため継続としている。

→校内実習の評価表は高等部として活用、改善が進んでいるが全校には周知できていないため継続。

→教員研修は受講者数が少なかったという課題があった。教員の学びとなる研修会を今後開催したいため継続とした。

・(委員)グランドデザインと照らし合わせて校内実習評価表 今子どもたちがどんな力を持っているのか、強みをどう伸ばしていくかを共有する良いきっかけのツールになると良い。今後さらにブラッシュアップしてより良いものにしていただきたい。

・(委員)ITの活用など、状況は変化していくものなので様々な視点を取り入れながらブラッシュアップして欲しい。

・(委員)中学部の作業の授業で我が子がクリーン班で学習しており、先日授業参観をした。中学部では作業日誌を見るのみだがこのようなものが中学部でもあると良いかと思う。保護者は共有できるのか？

→現状は校内資料としている。教員で共通理解して具体的に伝えられる資料として活用している。

・(委員)まだ作成が始まったばかりだが、ゆくゆくはそのツールを本人、保護者とも共有できる方向性で進んでいくと良い。

○地域等との協働

・(委員)HPの発信の対象は誰で、何を目的にしているのか？

→発信に悩む地域の小中学校の教員や保護者に向けた教材、取り組みの発信を行ってセンター的機能の役割を果たしていきたい。分かりやすい項目立て、専門用語ではない説明で作っている。

・(委員)HPはアクセス件数で検証できる。どこを見てもらっているか確認しながらブラッシュアップしていけると良い。「この情報は役立ちましたか？」というポップが出るようにして答えてもらうのも良いのではないかと。

・(委員)取り組みを知ってもらう、広く知ってもらう仕掛けが必要。アクセスしやすい手段の工夫もしていけると良い。

→次年度周知の方法についても行っていきたい。

・(委員)東本郷小の子どもたちはすごく優しい子が多い。交流を通して他者を尊重する気持ちが育っていると感じる。みどり支援の子どもたちはどのように感じているかを知りたい。双方向の充実を目指したい。居住地交流では子どもの写真を毎年掲示して校内で共有してい

	<p>る。校内の沢山の子どもたちが、交流に来た子どもに沢山声をかけていて、積み重ねの交流の効果を感じる。学校間交流の取り組みをトピックで終わらせず、継続した取り組みとしていきたい。良い方法がないか見直したい。双方の職員で考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員)もう一步踏み込んだ交流をぜひ目指していただきたい。 ・(委員)今週居住地交流に行ってきた。我が子も自分も地域の学校に行ける、声をかけてもらうことがとても楽しみ。居住地交流に行くだけでなく、相手校の反応を親も知りたい。 <p>○学校管理・学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員)ICTの活用は具体的にどのようなことをされているのか？ →大型電子黒板、一人一台端末、指導用 iPad が導入された。その整備・活用をしていく。また教員の働きやすさのために Teams の活用を進めている。大型電子黒板は 2 学期終業式、3 学期始業式で感染症拡大予防のために分散開催するために活用できた。電力の確保等課題があるが、担当チームを中心に整えていく。次年度は統合型校務支援システムも導入される。また、ICT を活用した教育の充実も目指していきたい。 ・(委員)日々の先生方の業務量が膨大になっていると想像される。ICT の活用で軽減されていくと良い。 ・(委員)五月雨式にハード面が先に整っていった状況なのかと感じた。 →きちんと整理して校内全体としてどう管理、運用していくか進めていきたい。広がってしまう前に整理を行い、学校としての活用を目指していきたい。 <p>5つの視点の評価について承認いただいた。</p> <p>(4)学校評価アンケートの集計結果について 回答率 保護者 186/249 教職員100/120</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員)「わからない」の検証も大切ではないか。 ・(委員)小学校はかなり辛口なアンケート結果となっており、学校の取り組みの発信の重要性を感じる。 ・(委員)個人情報の保護や適正な会計処理については 100%「そう思う」となるよう目指していただきたい。 ・(委員)今後に期待することについて保護者、教職員との相違がある部分に着目し、今後に生かしていけると良い。 ・(委員)保護者の方と話していると教員、進路担当の専門性があってもコミュニケーションの問題でうまく伝わっていないと感ずることがある。原因に相手軸に立てていないことが考えられる。アンケート項目にはないが、保護者はそういう課題も感じているかもしれない。 <p>(5)目標達成に向けてのロードマップの検証について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8 年度に向けた改訂について承認いただいた。 <p>事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日いただいたご意見は資料6の学校関係者評価に記録していく。 <p>(6)会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間は超過したが貴重な議論ができたことに感謝します。この 1 年間ありがとうございました。 <p>(7)学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は多くのご意見をいただきありがとうございます。ご意見をいかしてロードマップに沿って取り組んでまいりたいと思います。 <p>(8)各部会</p>
<p>会 議 資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①令和7年度第3回次第(本紙) ②令和7年度神奈川県立みどり支援学校運営協議会運営要項 ③学校教育計画(令和6年度～令和9年度) ④みどり支援学校ランドデザイン ⑤みどり支援学校4年間の目標のためのロードマップ ⑥令和7年度みどり支援学校 学校評価報告書 ⑦学校目標達成に向けたマトリクス ⑧令和7年度みどり支援学校 学校評価年間評価(各グループ・学部)